

平成29年度 JAいわて花巻 りんご病害虫防除暦

花巻農業協同組合
中央農業改良普及センター地域普及グループ

回数	防除時期	散布日の目安	10a当散布量(kg)	農薬の種類	農薬名	倍率	使用時期(収穫前)	防除作業および散布上の注意
	芽出前							・粗皮削りを行い、ナミハダニ越冬成虫を除去する。併せて腐らん病防除に努める。 ・前年、病害虫多発園では、落葉を集めて焼却する。 ・前年、カイガラムシ類が発生した園地ではハーベストオイル(50倍、発芽前)を散布する。なお、今回散布した場合、展葉期のリンゴハダニの越冬卵を対象にした散布は必要ない。
	芽出当時	4月上旬						・前年、モニリア病が発生した園地では、パスポート顆粒水和剤(1,000倍、45日前まで)を必ず散布する。
1	展葉期 (芽出し10日後)	4月中旬 (4/18)	250	殺菌	ベフラン液剤25	1,000倍	展葉期	・モニリア病の孢子飛散盛期は例年、4月第3～4半旬頃である。 ・リンゴハダニの越冬卵が多い園地では、ハーベストオイル(100倍、展葉期(発芽後2週間まで))を散布する。 ・ハーベストオイルは西洋なしには発芽前までにしか使用できない。 ・ヤナギルリチョッキリの被害が見られない園地では、ダーズバンドFに替えてダイアジノン水和剤34(1,000倍、30日前まで)を散布してもよい。 ・展葉期と開花直前の間隔が開く場合は、ジマンダイセン水和剤(600倍、30日前まで)を特別散布する。
				殺虫	ダーズバンドF	3,000倍	45日前まで	
2	開花直前	5月上旬 (5/3)	300	殺菌	オンリーワンフロアブル	2,000倍	7日前まで	・訪花昆虫保護のため、開花直前から満開期過ぎまでは殺虫剤、殺ダニ剤を散布しない。 ・アブラムシが多発した場合は、ウララDF(4,000倍、14日前まで)を加用散布する。 ・うどんこ病発生期の飛散時期。被害葉は摘み取る。
3	落花期 (落花7～8割の頃)	5月中旬 (5/15)	450	殺菌	ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	・落花期の散布が遅れるとサビ発生の原因となる場合があるので、遅れずに散布する。 ・害虫を一掃するための重要な防除時期。 ・うどんこ病の発生が多い場合は、ジマンダイセン水和剤に替えて、ラビライト水和剤(600倍、60日前まで)を散布する。 ・エルサン水和剤40の使用回数は本剤・成分(PAP)ともに2回以内(樹幹散布は1回以内)である。りんごに使用できるPAPを含む農薬にはラビキラー乳剤がある。 ・前年、リンゴワタムシが多発した園地ではエルサン水和剤40をスプラサイド水和剤(1,500倍、30日前まで)に変更する。 ・マメコバチ放飼園において、リンゴワタムシの発生が認められる場合は、落花期の殺虫剤散布を見送り、落花10日後にスプラサイド水和剤(1,500倍、30日前まで)を混用散布する。 ・ リンゴハダニの発生を確認した園地ではピラニカ水和剤(2,000倍、21日前まで)を散布する。ナミハダニの発生を確認した園地ではアカリタッチ乳剤(2,000倍、前日まで)を落花期および落花10日後の2回散布する。 ・落花期以降、主幹や側枝から木屑を出しているヒメボクトウの食入孔を確認したら、ロビンフッド(前日まで、2回以内)のノズルを差し込み噴射する。
				殺虫	エルサン水和剤40 または (マメコバチ飼育園では) ロムダンフロアブル	1,000倍	45日前まで	
				殺虫	ロムダンフロアブル	3,000倍	14日前まで	
4	5月下旬 (落花10日後)	5/25	450	殺菌	デランフロアブル	2,000倍	60日前まで	・5月下旬から炭酸カルシウム水和剤等を2回散布すると果面保護に役立つ。 ・炭疽病の果実感染が始まる。感染予防のため、防除間隔を保ち、降雨前の防除に努める。 ・前年、モモチョッキリゾウムシが多発した場合は、マブリック水和剤20(2,000倍、30日前まで)を散布する。マブリック水和剤20はデランフロアブルと混用事例がないので注意する。
5	6月上旬 (落花20日後)	6/5	550	殺菌	アントラコール顆粒水和剤	500倍	45日前まで	・サビが発生しやすい時期となるため、散布後の薬液が乾きやすい好天時を選んで散布する。 ・ナミハダニの伝染源となる樹上部の徒長枝の除去に努める。 ・カメムシ類の飛来が多い場合は、キラップフロアブル(2,000倍、14日前まで)を散布する。
6	6月中旬	6/15	550	殺菌	トレンノックスフロアブル	500倍	30日前まで	・ビターピット防止および油上がり軽減を目的にカルシウム剤を3～5回散布する。 ・キンモンホソガ第1世代羽化盛期。アメダスデータによる羽化盛期予測を参考に、羽化盛期前後5日の効果が高い時期にタイミングを合わせて防除を行う。
				殺虫	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	
7	6月下旬	6/25	550	殺菌	パスポート顆粒水和剤	1,000倍	45日前まで	・ 極早生品種の収穫前日数を考慮し、散布時期が遅れないように注意する。 ・輪紋病の果実感染が多くなる。感染予防のため、防除間隔を保ち、降雨前の防除に努める。 ・殺ダニ剤の散布の要否は、成幼虫の寄生葉率30%を目安とし、これ以下の場合は散布を繰り返す。 ・殺ダニ剤散布後に下草処理を実施すると、下草から樹上にナミハダニが移動し増殖が早まるため、下草処理は必ず殺ダニ剤散布前に実施する。 ・前年、斑点落葉病の発生が多かった園地では、パスポート顆粒水和剤に替えて、ロブドー水和剤(600～800倍、14日前まで)を散布する。ロブドー水和剤はスターマイトフロアブルと混用事例がないので注意する。
				殺虫	スプラサイド水和剤	1,500倍	30日前まで	
				殺ダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	
8	7月上旬	7/5	550	殺菌	オキシンドー水和剤80	1,200倍	14日前まで	・シンクイムシ類の被害果は水漬け処分する。 ・ヒメボクトウの羽化、産卵が始まる。幼虫の樹幹への食入を防ぐため、薬液が樹幹まで十分到達するように散布する。 ・カメムシ類の飛来が多い場合は、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍、7日前まで)を散布する。
				殺虫	フェニックスフロアブル	4,000倍	前日まで	
9	7月中旬	7/15	550	殺菌	オキシラン水和剤	500倍	14日前まで	・ナミハダニの発生は、樹上部の徒長枝を観察して確認する。 ・斑点落葉病急増期。不要な徒長枝は切り取り薬剤が通りやすい樹形を維持する。 ・斑点落葉病の発生が多い場合は、オキシラン水和剤に替えて、ポリキャブタン水和剤(1,000倍、14日前まで)を散布する。 ・4回目(落花10日後)にマブリック水和剤を使用した園地ではスカウトフロアブルをオリオン水和剤40(1,000倍、前日まで)に変更し、10回目の殺虫剤にアクタラ顆粒水溶剤(2,000倍、7日前まで)を散布する。
				殺虫	スカウトフロアブル	2,000倍	前日まで	
10	7月下旬	7/25	550	殺菌	アリエッティC水和剤	800倍	14日前まで	・ 極早生品種の収穫前日数を考慮し、散布時期が遅れないように注意する。 ・殺ダニ剤の散布の要否は、成幼虫の寄生葉率30%を目安とし、これ以下の場合は散布を繰り返す。 ・殺ダニ剤を散布する場合は、薬剤のかかりが悪い樹上部の徒長枝を除去してから行う。 ・カメムシ類の飛来が多い場合は、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍、7日前まで)を散布する。
				殺ダニ	コロマイト乳剤	1,000倍	前日まで	
11	8月上旬	8/6	550	殺菌	フリントフロアブル25	2,000倍	前日まで	・前年褐斑病の発生が多かった園地では、トップジンM水和剤(1,500倍、前日まで)を混用する。
				殺虫	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	
12	8月中旬	8/18	550	殺菌	ベフラン液剤25	2,000倍	前日まで	・西洋なしと混植している場合は、ベフラン液剤25に替えて、ベルコート水和剤(1,000倍、前日まで)を散布する。 ・カメムシ類の飛来が多い場合は、サムコルフロアブル10に替えて、キラップフロアブル(2,000倍、14日前まで)を散布する。キラップフロアブルはベルコート水和剤と混用事例がないので注意する。 ・ナミハダニの発生が多い場合、オマイト水和剤(750倍、3日前まで)を散布する。ベフラン液剤25とオマイト水和剤を混用する場合は、ベフラン液剤を最後に加えて速やかに散布する。
				殺虫	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日まで	
13	(8月末) 9月初め	9/1	550	殺菌	ストロビードライフロアブル	3,000倍	前日まで	・前年の秋期にシンクイムシ類の被害が多かった園地では、オリオン水和剤40(1,000倍、収穫前日まで)を加用散布する。
14	9月中旬	9/15	550	殺菌	ストライド顆粒水和剤	1,500倍	前日まで	・これ以降ハダニ類の発生が多い場合、アカリタッチ乳剤(2,000倍、前日まで)を2回散布する。 ・9月下旬以降高温経過が見込まれる場合は、トップジンM水和剤(1,500倍、前日まで)を9月下旬に特別散布する。

カルシウム剤

※ 農薬を使用する際は、指導機関、農薬販売店、「いわてアグリベンチャーネット」(<http://i-agri.net/agri/>) 等で最新情報を確認し、使用者が責任を持って使用すること。

※ この防除暦は、平成29年1月15日時点の農薬登録内容に基づき、作成しています。